

# 博物館だより



No.124

平成29年3月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都市みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

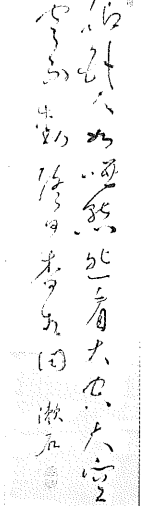
## 博物館新展示「ここに注目！ 小宮豊隆資料 「漱石コレクション」

今年夏は夏目漱石先生誕生150年。没後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事は注目的で、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。  
●夏目漱石揮毫「二点書幅・額装書」



▲額装書「随縁放曠」(明治44年頃)

漱石は執筆を終えた日の午後、気分転換を兼ねて日常的に揮毫を重ねたといわれます。このため相当数の作品が生み出されたものの、自他にとって特別な意味を持つ作品とな



▲書幅「五言絶句「仰臥人如睡」」(明治43年9月作)

ると目ずと限られたようですが、ここに紹介する二点は数少ない「いわくつき」の作品となるものです。

二点とも漱石が生死を彷徨った「修善寺の大患」後に書かれたもので、書幅の方は「吐血後の茫然とした感覚は何事も何物もなく、私は大空と一体化した」という病後感を記します。

額装書は、大患の漱石に付添って結婚を延期した小宮のため、のちに漱石が贈ったもので「天与の縁に従い自由に生きよ」という、新生活を始める小宮への激励とともに、晩年の漱石が目指した境地「則天去私」に通じる自身への警句と思われる。何れも臨死体験を経て獲得した漱石の心境がよく示されており「彼岸(あの世)を見た人間」ならではの世界観が窺えます。

## ◆講座教室・催し物ガイド 3月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】  
3月4日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】  
3月11日(土) 10時00分
  - 【古典かな講座】  
3月18日(土) 9時30分
  - 【みやこ学講座】  
3月28日(土) 9時00分
- ※見学会等は別途ご案内します。  
※日程等変更となる場合があります。

## 春から博物館友の会で「楽習」しませんか？

博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、見学会やバスハイク等の「楽習」催事を行っています。関心のある方ならどなたでも参加OK。ぜひご入会を！  
♪入会方法：窓口で会費を納入  
♪年会費：個人会員 三千元  
※家族会員は1名様 一千元  
♪お問い合わせ先  
博物館 ☎33-4666

## 歴史を学ぼう！文化にふれよう！ 歴史講座受講生募集！

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。受講希望の方はお気軽に博物館までお問い合わせください(継続して受講を希望される方の申込については不要です)。

なお、講座では毎回資料代として200円が必要ですのでご了承ください。



### 講座の内容

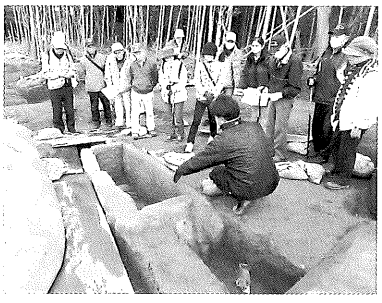
- 漢詩紀行講座  
講師 宮原加代子 先生  
内容 末松謙澄(村上弘山門下生)の詩を鑑賞し、その時代と周辺を探索します。漢詩の基礎も学びますので初心者も歓迎です。筆記用具・辞典などをご持参ください。  
○実施日 毎月第1土曜日  
午前9時30分
- 古典かな講座  
講師 宮原加代子 先生  
内容 万葉時代前期の歌人・柿本人麻呂と山部赤人の歌を鑑賞し手習いもします。初めての方も歓迎します。筆記用具・用紙などをご持参下さい。  
○実施日 毎月第3土曜日  
午前9時30分

### 古文書講座

- 講師 外部講師
- 内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関わる古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。
- 実施日 毎月第2土曜日  
午前10時00分

### みやこ学講座

- 講師 当館学芸員
  - 内容 郷土の歴史について講義はもちろん、実際に現地(遺跡やゆかりの地など)を歩き・見・触れる体験型学習を行います。  
テーマは「みやこ町・豊前地方の自然と文化遺産」。ゆかりの話題を交え関連学習を進めます。
  - 実施日 毎月第4土曜日  
座学は午前10時00分
- ※見学会は開催の都度連絡します。



▲参考：みやこ学講座における現地学習の様子  
現場・現物からの発見・着想を大切にします。

みやこの歴史発見伝 95  
みやこ町の古い地名 6

# 犀川地区 3

今回は犀川地区の古い地名の三回目です。

## 内垣

内垣は祓川中流の小盆地の左岸に立地します。

地名の由来は、中世の豪族あるいは莊園関係者のもので、垣の内すなわち内垣と呼ばれるようになったといわれています。

「島津家久上京日記」天正三年（一五七五）三月六日条によると、島津家久は英彦山参詣後小倉に向かい、「ほはしら」を経て、「紀伊の内うら増」といへる村で一泊しています。これは城井の内の「うら増」（内垣）とみられています。

## 犬丸

犬丸は祓川を挟んで内垣の南側の沖積地に立地します。

地名は戦国期の城郭に由来するといわれますが、中世の名田に由来するという説もあります。寛正六年（一四六五）十二月七日の大内政弘袖判下文によれば、「豊前国仲津郡伝法寺庄内小犬丸名」二四石七斗ほかが榎本国忠にあてがわれていて、「小犬丸名」は当地に比定されています。

## 木井馬場

木井馬場は犬丸の上流で、複数の小集落に分かれています。地名の由来は、『和名抄』仲津

郡の項に「城井郷」と記され、「紀伊」と同じく樹木の繁茂した土地にちなむ名で木を二字化したものといわれます。馬場の地名は神楽城に関係のある呼び名と考えられています。

下木井は鎌倉初期に関東から下向した御家人宇都宮氏の拠った神楽城下の集落で、地割の跡が残ります。

木井神社のイチイガシと木井馬場のムクノキは町の天然記念物に指定されています。

## 横瀬

横瀬は下木井から三キロメートルほど上流に位置します。

地名の由来は、『京都郡誌』によると「川ニヨリ添テ両山足出テ殊ニ隘シ、カ、ル故ナルベシ」とされています。

『宇佐大鏡』所載の宇佐宮大宮司公順処分状案に「仲津郡城井郷字横瀬浦田二丁六反代」とみえます。

## 伊良原

伊良原は横瀬のさらに上流で、大字は現在下伊良原と上伊良原に分かれています。

地名の由来は、イラ草が繁茂する野原の意とされています。

慶長年間（一五九六〜一六一五）以前に上・下の伊良原に分かれていたようです。某書状案によれば、永正十三年（一一二六）十二月豊後で大友氏に反して敗れ、豊前道城寺（現行橋市）に潜伏し

ていた朽網親満が「日田境伊らわら」に移り、吉弘親就や一万田六郎らと再挙兵について相談しています。

地区内には豊国楽や上伊良原神楽などの町指定の民俗文化財が伝承されています。



▲上伊良原神楽

## 扇谷

扇谷は伊良原と帆柱の中間で、西方から祓川に流入する小谷に立地します。

地名は、谷の入口が狭くて中が広く、地形が扇形をなしていることに由来します。

寛永九年（一六三三）小笠原氏入部後に上伊良原村から分村したとみられています。

大山祇神社の大イチョウは町指定の天然記念物です。

## 帆柱

帆柱は祓川の最上流に位置する集落です。

地名の由来は、「神功皇后征

伐韓ノ時櫓ノ用材ヲ・・・字杉山ノ地ニ得」たことによるとい（字一本木大山祇神社々記）、帆柱を求めた船頭の住地が字船頭であるとも伝えられています。

しかし、「船頭」は英彦山信仰に関連する「専当」に由来する地名とも考えられ、地形からすると、辺地で年貢を納めず作り取りをする田地を意味するホマチダがホバシラに転じたともみられています。

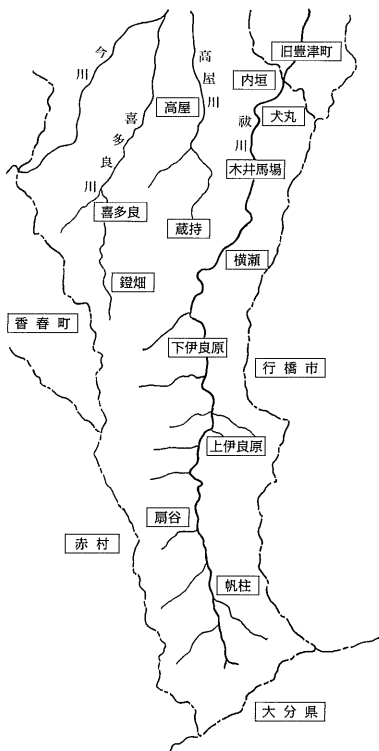
当地の古文書によれば江戸期に灌漑用の樋の用材やその他の材料を切り出した記事があり、豊富な木材を産出していたようです。

永沼家住宅は江戸時代後期の天保十年（一八三九）に建築された、江戸時代に庄屋を務めた永沼家の茅葺家屋です。昭和五二年（一九七七）に国の有形文化財に指定されています。



▲永沼家住宅

（末永弥義）



▲犀川地区東部の大字